人材養成ユニット名「クリニカルバイオスタティスティクスコア人材養成ユニット」

代表者名 「学長 平野 実」

提案機関名
「久留米大学」

計画の目標・概要

1.目標

わが国では医学研究および医薬品研究などにおいて、バイオ統計学研究者の量的および質的不足による 影響は、学術研究のみならず広く産業界における国際競争力の不足にも連なり、きわめて重要な戦略的課 題として、近年認識されている。我々は、久留米大学大学院医学研究科医学専攻の中に「バイオ統計学」 を設け、このような現状に鑑み、国際的標準とも見なされている、米国に準じるバイオ統計研究体制の確 立を図り、もって有能な人材の育成に資することを目標とする。

当ユニットの運営にあたっては、広く海外の研究機関および国内外産業界との連携を図ることにより、 より実践的な教育プログラムを実施する。本研究期間(5年)内に、バイオ統計を専門とする修士・博士 を育成するものである。

人材養成開始後3年目の目標

- ・ 久留米大学大学院医学研究科修士課程10名、および同博士課程10名をバイオスタティスティシャンに育成する。
- ・ 修士課程の学生は2年後、MSの学位を授与する。大学院博士課程の学生は、半年間の集中講義の後、海外の大学の協力のもとバイオスタティスティクスのPh.D学位を取得させる。

人材養成開始5年後の目標

- ・ バイオスタティスティシャンに育成を最終的に、修士課程20名および博士課程20名輩出する。
- 海外の大学と留学制度を連携し、ポストドク(外国人を含む)6名と製薬会社からの受託研究員 10名を養成する。
- ・ 久留米大学大学院医学系研究科の中にバイオ統計学を設置し、バイオスタティスティクスの Ph.D学位が授与できるまでに構築する。

2 . 内容

統計学の権威である九州大学の柳川堯教授をはじめ、角間辰之教授の指導のもと、このユニットを開講する。人材養成の実践の場として、久留米大学病院からの患者サンプルを「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」に準拠し、匿名化システムを使用した個人識別情報管理室にて、試料提供者の匿名化を行いその情報を管理する。創薬を目的とした治験・プロテオーム解析センターへ患者サンプルを送り、疾患別にターゲットタンパクを解析する。 この課程全てのバイオインフォマティクスを学び、治験センターからの実際の臨床研究データーの解析

| この課程全てのバイオインフォマティクスを学び、治験センターからの実際の臨床研究データーの解析 を統計学的に分析判断できるバイオスタティスティクスの教育を行い、将来、産学官にわたる主要重要人 材となる養成を行う。

諸外国の現状等

1 泪状

米国では年間約20名のバイオスタティスティシャンが養成され、かれらを中心にクリニカルリサーチ センターが構築され、スピーディーに臨床治験が実施されるため、新薬開発治験におけるFDAの認可か 容易に受けられる体制が整っている。

2. 我が国の状況

本邦においては、医薬品開発における機能的な治験実施体制が整備されておらず、必要かつ十分な治験 デザインのプロトコールを作成できるバイオスタティスティシャンが不在なため、我が国の製薬会社によ るGCPに乗っ取った新薬開発のための臨床試験は、欧米に頼ることになり、膨大な研究費が流出し、研 究のプライオリティーを海外に奪われ、我が国の患者は新薬の恩恵にあずかるのが遅延している。

計画進展・成果がもたらす利点

優秀なバイオスタティスティシャンの活躍により、臨床と研究が一体化し世界に通じる新薬の開発が迅速化され、難治性患者は新薬の恩恵にあずかり、我が国における新薬の研究開発力および研究レベルが向上し、製薬業界の発展が期待でき、経済的発展にも寄与できる。プロテオーム研究においては、現在は角間辰之教授のみであるプロトコールデザインを作成できるバイオスタティスティシャンを複数養成できることになり、世界に先行した創薬事業が展開できる。

実施体制

人材養成ユニット名「クリニカルバイオスタティスティクスコア人材養成ユニット」 代表者名 「学長 平野 実」

提案機関名 「久留米大学」

久留米大学医学研究科修士課程学生、博士課程学生、 受託学生(共同研究製薬メーカー等)、ポストドク

